Weekly Bulletin Vol.63 No.43

インスピレーションになろう

2018–2019　RI会長 バリー・ラシン　泉大津ロータリークラブ(創立1956.5.4)

週報　第3033回

会　長　藤野 修次　**副会長**　藤原 重行
幹　事　寺田 敏也　**ＳＡＡ**　泉谷 仁博

例会場　ホテルレイクアルスターアルザ泉大津
ＴＥＬ　0725-20-1121
例会日時　毎週金曜日 12:30〜13:30

泉大津ロータリークラブ
Izumiotsu Rotary Club

事務局　〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501
メールアドレス　izumiotsu-rc@ioctv.zaq.ne.jp
ホームページ　http://izumiotsu-rc.org

今週の例会（2019年6月14日）

■ プログラム

6 月 14 日：卓話担当
原　正人　会員

■ 次週のプログラム

6 月 21 日：「1 年を振り返って」
会長、幹事、ＳＡＡ

■ 今後の予定

6 月 28 日：最終例会懇親会

■ 祝　誕生日

なし

■ 今月のロータリーソング

奉仕の理想

今月の歌

かたつむり

でんでん虫々　かたつむり
お前の頭は　どこにある
角だせ　槍だせ　頭だせ

■ 先週の例会

会長の時間

藤野 修次 会長

先週の港湾清掃にたくさんのメンバーが参加して頂き有り難うございました。それに、山本委員長様、お疲れ様でした。

今日は、「もう、あわててトイレに駆け込まなくていいんです」と言う記事があったので紹介させていただきます。これは、ある女性ライター仲間の会話です。若いころは気にもしなかったけど、歳とともに切実になるトイレの悩み。だってまだ54歳。仕事の打ち合わせ中にソワソワ、サービスエリヤのトイレの長い行列でイライラ、せっかくの旅行もヒヤヒヤ･･･。外出先ではまずトイレの場所を確認し、椅子から立ち上がる時はゆっくり慎重に、がいつのまにか習慣になっていませんか？

そんなある日、ライター仲間で集まると話題はトイレの話に。なるほどみんな同世代、悩みは同じだったのです。　今日は午前中だけで５回もトイレに行ったとか、どれだけ我慢できたとか、まるで自慢大会のような感じで盛り上がりました。しまいには「みんな歳なやから仕方ないよ、最近はいいオムツがあるからいいじゃない」なんて気楽な意見まで出ました。すると仲間内で最も売れっ子の美容・健康ライターのＹ子さんが、「みんなこれ、知らないよね」とおもむろにバックから小さな粒を取り出した。「一日に一粒を目安に飲むと、しっかり実感できるの。だまされたと思って試してみたら？ビックリするわよ」半信半疑ながらその場にいた全員が一粒ずつ飲んで解散。その晩一度もトイレに起きることなく朝を迎え「もしかして、あれのおかげ？？」と一斉にメールしてみたら、みんな同じような体験があったみたい。いったいどういう事？「トイレの悩みといえばノコギリヤシやペコかぼちゃが定番ですが、実感するに長い時間がかかるという不満の声がありました。」

ところが最近の研究で、神秘の森・屋久島にひっそりと自生する「ボタンボウフウ」という野草がトイレの悩みに直接働きかける事が明らかになったそうです。一日たった一粒飲むだけで、驚くほど早い実感がえられ、女性・男性を問わず変化を感じている方が急増しているらしいです。私も一度、屋久島のボタンボウフウという野草で作った漢方のような粒を試してみようと思います。

幹事報告　寺田　敏也　幹事

○メールボックスの中に、ロータリーの友６月号が入っておりますのでご講読よろしくお願いします
○本日午後７時より「割烹 吉野」にて、新旧理事役員会を開催します
○本日の週報ですが、編集に時間がかかりましたので来週には、先週の卓話内容を掲載したいと思います。
○和泉ロータリークラブ例会変更のご案内
６月１９日(水)の例会は同日１８：００から最終例会
６月２６日(水)の例会は休会

委員会報告

○来週６月１４日、１９時より「すし芳」で委員会を開催します(松村　泰英　親睦活動委員長)
○本日例会終了後、次年度の親睦活動委員会と会報ＩＴ委員会を開催します
(杉本　憲一　次年度幹事予定者)

■ 出席報告　会員数44名 出席免除０名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
6/7	32名	12名	—	72.73%
5/24	33名	10名	4名	86.05%

■ メークアップ

榎本（5/28 Rotary E-Club Sunrise of Japan）
川端、上田（6/2 港湾清掃）
松村（6/7 新旧理事役員会）

■ ニコニコ箱

- よろしくお願いします（延山）
- 延山様、入会おめでとうございます。今日のクラブアッセンブリーよろしくお願い致します（藤野）
- 本日、クラブアッセンブリーよろしくお願いします。延山さん、御入会おめでとうございます（寺田）
- 延山さん、入会おめでとうございます。本日、クラブアッセンブリー、五大奉仕担当理事の皆様宜しくお願い致します（泉谷）
- 先日の港湾美化運動にご参加頂いた皆様、ありがとうございました（山本（博））
- 松内様、お世話になりました。早退のお詫び（藤原）
- 欠席のお詫び（原（眞））
- 欠席のおわび（西野）
- 欠席のお詫び（西田）
- 早退のおわびです。申し分けありません（川端）

ニコニコ箱合計	37,000 円
累計	871,000 円

■ 御入会　延山様、御入会おめでとうございます。

先週のプログラム　クラブアッセンブリー

クラブ奉仕部門理事
植村　勢彦

「クラブ奉仕」には、ロータリアンが自分達のクラブを、うまく機能させるために必要な活動のすべてが含まれます。ロータリークラブ定款では「クラブ機能を充実させるために、クラブ内で会員がとるべき行動に関わるものである」と記述されています。これからのクラブ運営で「入会して良かった」と思われるクラブとなるには、会員のニーズをしっかりと把握し、その期待に応えることが重要です。地域に貢献していると実感が出来、仲間との友情を育むことのできるクラブとなるには、どうすれば良いかを検証し、各委員会の委員長さんとコミュニケーションを図り、クラブの発展に貢献出来る様に活動して参りました。

会員増強・クラブ研修委員会

原委員長が中心となり、候補者リストを作成し、計画的に面談を繰り返し、入会交渉を進め、本年度は４名の入会者が有りました。今年の「会員増強」は、ここ数年では一番多い新会員が増強されました。今も気を許す事なく勧誘を継続し、次年度の「会員増強」の委員長に引き継がれていきます。「継続は力なり」で、ロータリークラブにおいては、「会員増強」は永遠の課題です。また新会員の勧誘以外に、現会員の維持にも努め無ければ成らない課題が残されています。　「会員増強」は委員会だけで出来るものではありません。会員１人１人が意識を持って頂き、情報・紹介が有って成り立つと思います。クラブの活性化・健全化を図るには、重要な活動であります。　またクラブ研修は、本年４月５日に家庭集会が行われ、高寺パスト会長に講師をして頂き、資料も作成して頂きロータリー活動の色々なお話が聞けて、とてもいい勉強になりました。私は以前から家庭集会・オリエンテーション等を交えて３年未満の会員を中心に、ロータリーを知って頂く為に、積極的に実施されるべきだと思います。

会報・ＩＴ委員会

櫻井委員長が中心となり、スムーズなクラブ運営のために、お知らせ・事業・行事など、その都度投稿して頂きました。週報の作成には大変な物が有ります。毎年変われる会長の考えを反映するので、其の年によって簡素化されたり、又は内容を重視したり様々です。委員会もその都度対応しています。またＩＴを活用して昨年ホームページも更新し、またフェースブックも充実して参りました。クラブの発展と奉仕活動を改善、拡張するためには、自ら他の人々に知らせ、クラブの存在感を一層際立たせるツールに成るように、努めて来られました。また今年は、地区からマイ・ロータリーの登録の要請が来ていますが、当クラブの登録者数は、数名しか居られません。また昨年の台風２１号の影響で、通信網が遮断されましたが、現在は改革されております。

親睦活動委員会

松村委員長が中心となり、親睦を深める最適な場所は、週１回の例会です。ほとんどのクラブでは、新入会員は当委員会に配属されます。毎例会、会員相互の親睦を図ることによって、友情・奉仕の心が高まってくると思います。またロータリーを理解して頂く為にも、家族との親睦を深めるのも大事だと思い、環境の整備に努めて来られました。ロータリークラブの委員会の中でも一番アクティブな委員会であります。この１年、数々の事業が無事成功に終わられています。

最終例会・納涼例会・クリスマス例会・その中でも、京都での家族例会は、皆様もご家族もいい思い出になったと思います。この委員会は、企画・運営・設営・予算でその都度委員会が開催され、毎回意見交換をされていました。またゴルフ同好会の窓口にも成っていますので、２回のコンペを開催し、十数年ぶりに一泊二日で白浜にてコンペを開催し、参加者全員が笑顔で楽しんで居られました。

最後に、各委員長・委員会の皆様、この一年間本当にお疲れ様でした。

この活動報告書はクラブ奉仕部門の総括としての報告です。各委員長から個別に活動報告書が提出されます。

職業奉仕部門理事
瀧谷 達

2018〜2019年度
職業奉仕部門活動報告書
（活動内容）
2018〜2019年度
職業奉仕部門の活動
2019年5/24(金)
地域周産期母子医療センター
(泉大津市立病院)職場訪問

（総括）
2018〜2019年度職業奉仕部門の活動ですが、2019年5/24(金)地域周産期母子医療センターに職場訪問をいたしました。
16名のメンバーの方にご参加いただきました。
泉大津の身近にありながら、なかなか知ることのなかった地域周産期母子医療センター。
職場訪問では、母子医療の講義、高度な医療機器や病棟施設を見学させていただき、改めて母子医療の難しさや大切さを感じ知ることができたと思います。
参加いただいた各メンバー方々にも母子医療の何か感じていただけたかと思います。
また、泉大津ロータリークラブより地域周産期母子医療センターに電動ベビーチェアを寄贈し、地域周産期母子医療センターからも感謝状をいただきました。
寄贈につきましては地域周産期母子医療センターの方々も非常に喜んでおられ、これから新生児のために大切に使用させていただきますとの言葉をいただきました。
今回の泉大津ロータリークラブ訪問につきましては泉大津市立病院のホームページにも掲載されております。
国際ロータリーには母子の健康に関する取り組みがございます。
今回の職場訪問の事業につきましては、その国際ロータリー取り組みに準じた活動ができたと思います。

以上

青少年奉仕部門理事
杉本 憲一

8月17日に 原正人会員の御子息原公作さん、オランダのサンポート・ブレディーローダRCの会員の御子息ウィッセル・ストームさんを招いて卓話をいただきました。公作さんのオランダでの短期留学ならびにウイッセルさんの来日での経験談を話してもらいました。

8月26日には2640地区の青少年交換長期・短期派遣学生の帰国報告会がりんくう国際空物流センターで開催されました。長期の留学生の発表に対して、海外で留学することによって、その国の風土、国民に対しての若い世代なりの観方、接し方に大いに感銘を受けました。また、発表された学生皆が、話の中で、今後の自分の人生、社会のあり方について述べられ、その点でも感心させられました。なお、公作さんウィッセルさんも発表されました。8月17日に比べると二人の呼吸も合っていました。

今年3月、地区青少年委員会より、インターアクト活動に取り組んでいる羽衣学園側から、夏季(7〜8月)の短期交換派遣として、地区の方に4名の推薦があり、真栄平結華さん(当時２年生)が泉大津市在住のため、当クラブにスポンサークラブの引き受けの話があり、受託しました。オランダに短期留学で、オランダ側の短期交換派遣学生が真栄平さん宅にステイしている7月26日にオランダの短期交換派遣学生と一緒にスピーチ(卓話)をしてもらう予定です。次年度に向けての継続事業となります。また、年内後半か、年明けにオランダでの体験と将来の抱負のスピーチ(卓話)をしてもらいたいと思っております。

一方、5月26日に2640地区のこの夏の短期交換派遣学生のオリエンテーションが、りんくう国際物流センターで9名の学生を招いて行われました。

続いて、ローターアクトクラブについてですが、1979年に創立され、今日まで親会のロータリアンのご尽力で40年活動してきましたが、会員数も１名になり、入会希望者もなく、今後の活動も難しいため、休会としました。

寂しい限りですが。報告いたします。

次に真栄平結華さんから、この度のオランダへの短期留学に向けての抱負のメッセージをいただきましたので御披露させていただきます。

泉大津ロータリークラブの皆様こんにちは。泉大津市に住んでいる、羽衣学園高等学校3年の真栄平結華です。この度、ロータリークラブを通してオランダへ三週間行かせていただきます。また、泉大津ロータリークラブが私のホストクラブとなってくださって有難うございます。

少し私の自己紹介をします。私は人と話すことが大好きです。それは国や年齢、性別関わりなく誰とでも話して親しくなれる私の特技でもあります。

今回私がオランダへの短期留学を決めた理由は、華やかで美しい歴史的建造物が沢山あるヨーロッパに憧れを抱いていたからです。そして今回担任の築山先生の方から応募依頼がきて申し込みをさせて頂きました。初めてオランダに行くので、実際オランダがどんな所なのか、自分の目で見て体験できる事がとても楽しみです。

私は、２歳の頃からヒッポファミリークラブに家族と所属しています。ヒッポファミリークラブを通して、小学校五年生の時にロシアへ２週間のホームステイを初めて経験しました。

そして、中学一年生の夏には、アメリカで一ヶ月のホームステイプログラムに参加し、そこで初めて見た地平線に沈む夕日を、ホストシスターとホストパパの牧場で見た時の感情は忘れられない良い思い出です。そこで出会った人達は本当に優しくて魅力的で、次はここで留学しようと決意しました。そして高校一年生の夏から、その時にお世話になったホストファミリーの元で、約一年間留学をしました。その一年間で英語力の向上はもちろんですが、親元を離れてみて気付く両親へのありがたみに改めて気づけたことや、様々な国の人と関わった事で色々な視点から物事を考えられるようになりました。

今回はオランダに行くので公用語はオランダ語ですが、ホストシスターが英語も流暢に話せると言う事なので、一年間で得ることが出来た英語力をオランダでも駆使し、日本の文化や歴史を彼らに伝えたいです。そしてオランダの歴史的背景についても学び、日本に帰ってきたらシェアしたいです。短い期間で新しい言語を習得するのは難しいですが、オランダのホストファミリーと一緒に過ごし仲良くなって、少しでもオランダ語を話したいです。

国際奉仕部門理事
（代読　南出 和成
ロータリー財団委員長）
八木 秀富

本年度の国際奉仕プロジェクト部門での活動状況は、特に例年と大きく異なる対外活動はありませんでしたが、クラブにおける活動を報告します。

2018年10月12日に米山奨学会についてのクラブフォーラムを開催し、米山奨学委員長 根尾玲子より、日本におけるロータリークラブ創設者である米山梅吉の生い立ちや仕事、そしてロータリー活動に懸ける熱意と理念を学習しました。

2018年11月 2日に　ロータリー財団についてのクラブフォーラムを開催し、ロータリー財団委員長 南出和成より、ロータリー財団の組織と仕組み、ロータリー財団の歴史及びロータリー財団の財務についての報告と学習を行いました。そして地区研修協議会で行われた内容についての報告がなされました。

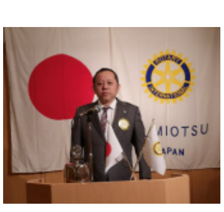
2019年 2月 1日に国際奉仕担当理事 八木秀富が国際奉仕部門のクラブフォーラムを開催し、米山記念奨学事業に関して、

- 奨学支援の対象及び奨学金の種類と対象
- 世話クラブとカウンセラー制度
- 「財団法人ロータリー米山記念奨学会」設立までの歴史的経緯及び財団の財源と事業費を学習しました。

また、2019年3月21日にロータリー財団補助金セミナーにロータリー財団委員長 南出和成が参加しました。

なお、今年度は、奨学生との具体的な交流をする機会を持てず、奨学金による経済的支援だけとなりました。

地区における今年度の米山記念奨学委員会議では、昨年度と同額の目標を設定ということになり、一人当たり普通寄付金６千円に加えて特別寄付金９千円合計１５千円を基金として搬出し、ロータリー財団へは一人当り50ドル(5,500円)、また、平成30年7月豪雨義捐金として20万円を拠出しました。皆様のご理解とご協力を賜り、有難うございました。



社会奉仕部門
理事・委員長
山本　博章

【　活動報告　】
本年度社会奉仕部門担当理事及び委員長を務めさせて頂いた山本です。
本年度社会奉仕部門メンバーとしまして渡辺会員・川端会員・村田会員の各諸先輩方のご協力の下１年間皆様にお世話になりました事厚く感謝申し上げます。さて、本年度の社会奉仕活動のご報告をさせて頂きます。
平成３０年　８月１２日(月)→　献血事業
南大阪聖書協会において献血を行いました約４０名の参加者がありました。また多数のクラブメンバー様より商品の提供などご協力頂きました。
令和元年　６月２日(日)→　港湾美化清掃活動
恒例事業となっております港湾清掃ですが本年度も１４名の会員様より多数ご参加頂いておりました。早朝より本当にありがとうございました。地域社会に居住する人々の生活の質を高めるため他団体の方々とも協力しながら行っております。公共のため奉仕する事は正に超我の奉仕を実践する機会でありロータリアン個人にとってもまたＲＣにとっても献身に値することであり社会的責務でもあると考えます。
この１年間奉仕の理想について考えさせて頂き大変勉強になりました。
改めてクラブメンバー皆様に深く感謝申し上げます。１年間ご協力本当にありがとうございました。

先週のプログラム　6月7日　卓話担当　古林　寿真子　会員

私は１７歳の時にイエスキリストという方と出会いました。それからの私の人生は本当にすばらしかったなと思い、また、こうして病気でありながらも感謝しながら過ごせるという事もありがたいことだなと思っています。皆様の中で一番わかっているようで、わかっておられないかも知れない、信教プロテスタントとカトリックとは、どう違うのかという事を時々お聞きするので今日はそのような事をお話しさせてもらいたいと思っております。まず皆様は、ヨーロッパに行かれる機会も度々あると思うんですけれど、オランダなんか特にすばらしい美術館それに筆頭するものがいっぱいでして、昔、お城に使われていたところ、タージュというオランダの美術館などは最高のところだと思います。そこでおそらく気が付かれるのは、何でこの聖書の中の絵とか、あるいは又、キリストの絵がこんなにあるのかときっとびっくりされるのではないかと思います。ある美術館に行きますと年表がございます。紀元前と紀元後、そのまん中に十字架が掲げられております。つまり紀元前というのは、英語で皆様も習われたＢ．Ｃ．といいます。Ｂ．Ｃ．というのは、Before Christという意味なんですね。キリストの前というビフォークライスト、で、Ａ．Ｄ．と習っておられると思うんですけども、そのＡ．Ｄ．は、Anno Domini というラテン語なんです。まん中の境目のところにキリストの十字架があるんです。なぜ、こんなところにこんなものがあるのかと一番驚かれるのは日本の方々だと聞いております。あまりにもそういう面で知っているようで知らないというところもあるのかなと私は思っておりますけれども、まずその紀元前ビフォークライストは、キリストが来られるまでの歴史が語られていて、キリストが、クリスマスあるいはイエス様のキリストの誕生日と言われているんですけれども、そこから数えていわゆる今年は２０１９年。先日から令和と替わりまして皆さんいろいろ仰ってますけれども、天皇陛下がかわられたら年号が替わるというのは日本だけです。そして又、そこで皆さんはこの２０１９年て何なんだろうという風な事も考えて頂けたら嬉しいんですけど。それはキリストの誕生から２０１９年です。この西暦というのは世界どこに行っても通用します。私ここに聖書を持ってまいりましたけれど、この聖書はだいたい３分の２がＢ．Ｃ．つまり旧約聖書です。その残りの３分の１はＡ．Ｄ．キリストの誕生からはじまりますけれども、そこからＡ．Ｄ．２０１９年ということになります。このぶ厚い聖書それは何か。まさに歴史です。歴史書です。日本の古い国でありましてもアメリカなんかと比べますとね、もちろん２０００年越えて存在する国ではあるけれどもこの聖書の歴史から考えますと、まだまだ浅い歴史であります。私はイスラエルという国には５〜６回まいりました。行くたびごとにヨルダンとかシリアとか危険な地区もいっしょに併せていつも行くんですけれども、ヨルダンがわを隔てた国はもちろんイスラムの国ですけれども、聖書と照らし合わせていきますとですね、何とも興味深い歴史がそこにあります。特にエジプトという国にまいりますと、大英帝国の博物館もあるんですが、そこに行きますと聖書の世界であります。それこそエジプトの初めの方の時代のすごい文化、私もびっくりしましたけれど、紀元前それこそ３０００年、４０００年その世界でもう既に脳外科が始まっていた。脳の手術がされている痕は残っております。そういうようなことで世界の歴史という点では聖書ほど古いものはありません。皆さんの高校生時代にいわゆる世界史というのを習われたと思います。その世界史の中に出てくる超有名なところではアレキサンダー大王といわれるギリシアの王様ですね。そしてその前がペルシア文化そのもう一つ前がバビロン帝国時代。それらがみな実際の世界でありまして実際のところ見ることができる遺跡がいっぱい残ってますけれどもそう考えるとこの聖書の歴史というのは本格的な事であります。ギリシア帝国なんかも旧約聖書の終りの方です。プロテスタント、カトリックはどこが違うのか、イエスキリストという方が救い主であり、この方が神であり又、人の姿をとった方でありという事を理解する点では、カトリックもプロテスタントもみんな一緒です。じゃあプロテスタントにいつからなったんだろうか。それは皆さんが歴史の中でも聞いた事があるマルチンルッタというそのもともと宗教祖だったんですけれども、聖書の書かれていることと、実際に彼が修道僧として過ごす毎日その矛盾の中で聖書をよく読みなおしてみると人は本当にイエスキリストを信じるだけで救われるという事が間違って解釈されて、まあ言えば政治と宗教が一緒になった文化を築いた頃はいわゆる暗黒時代と言われています。ですから皆さんホメインという最近はこの文化の中で両方の権力を握ったという人間、人類はどうなるのかということは、独裁者ですから恐ろしい人ですね。それがずっと長く続きました。それは間違っているという事でマルチンルッタが宗教改革を起こしたわけですが命懸けでした。その様な中で私たちはそのプロテスタントといわれる意味はそれに対して対抗した、闘ったという意味でプロテストという英語からきてるんですけれども、まさに本当にイエスキリストもこの聖書もみんな一緒なんですけどもその

権力と宗教の力と政治とを一緒にした暗黒時代の中で折角の修道僧、いわゆる司祭とかおられても皆さんがお金に目が眩んでそしてたくさんの妾を持ちそして又、いろんな財宝を積み立てたという点ではすごい事で特にカトリックはお金持ちでございます。ピラミッド的な文化なんですけれども皆さんもご存知のバチカン、特別のあそこは国です。ひとつの一国です。ですからイタリアにありますけれどもバチカンは全然違う世界であります。そしてお金持ちですからどんな事でも出来るんですが、ひとつだけじゃあ何処が違うの、それは聖書に全くない事実なのはローマ法王という存在です。ローマ法王という存在は何処にもありません。それから聖母マリアと申しましてイエスキリストを出産されたイエス様のお母様マリア。これをものすごく崇拝して偶像礼拝をするここが全然違うところであります。それ以外のそういう毎日の贅沢とかあるいは表面的にはいかにも宗教的らしいけれどももう信じられない様な生活をしてきたその文化も全然違うんですけれどもイエスキリストはそんなお方ではなくて睦み深い者達を何とかして天国に行けるようにという事でイエスキリストはおられました。そして正に皆さんもご存知のように十字架にかかって亡くなりましたけれども三日後に復活されました。ですから外国に行きますとイースター、クリスマス、ペンテコステそういった事は超大切な日でございまして、日本では考えられないぐらい皆さんとお祝いします。ましてや死んだ人が蘇るという事はありえない事なので、キリストという方は素晴らしいことを世界中が認めています。そして謎のカトリックの面で少し問題があるのを覚えておいて頂きたいと思うのは、教会では司祭さんがいつもお祈りしてくれているから私が少々他で悪い事をしたとしても教会で祈ってくれているからそのような悪い事をしたとしても、全部許されているという法律的に間違っている解釈をしまして、私もアメリカ留学中時代にはそういうカトリック信者達の盗みをしても平気、物を盗んだりとかいろんな問題を起こすことやっても大丈夫というその生活習慣は全然受け入れられることが出来ないものでした。ですからイタリア人なんかもカトリック多いですけど一緒に住まうとびっくりするようなことごとを経験させられます。ですけどプロテスタントは、イエスキリストの生き方とその生き様の中で私たちも生活していますから全然違うんですけれども、どこが違うのですかと言われたら聖書も一緒です。イエスキリストに対する素晴らしい信仰も一緒なんですが、いろいろ間違ったところがあります。でも嬉しい事はキリストに対する厚い信仰とそれからまた聖書に対する思いは一緒なんですね。本当に一度ぜひ聖書を読んで頂きたいと心からおすすめ出来ます。世界で一番人数が多いのはキリスト教なんですね。私たちは教えという言葉はあまり使いたくないです。教えじゃないから。キリストが仰ってる教えは素晴らしいです。でもそんな事で人が救われるわけではなくて救われるのはキリストの永遠の命これを心から信じることができた時です。一番大切な事はイエスキリストこの方です。そしてこの方は人間であり神でありながら自分は無実なのに十字架にかかり、はりつけにされながら人々のためにお祈りされた方です。そして三日後に蘇られました。イースターと言います；お覚えておいて下さい。これで終わらせて頂きますが、本当に生死、聖書ではイエスキリストによって救われない限り死んだ瞬間聖書に書いていますいわゆる地獄というとこへ行きます。けれどもそうでない永遠の命をいただいた人はその瞬間天のパラダイスに召されて行きます。それは読んでいただければわかります。それではこれで終わらせていただきます。

四つのテスト

＝言動はこれに照らしてから＝

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか